



自社製品含めてソフト・ハードを市場に

株式会社 光文堂

常務取締役関西ブロック統括本部長  
兼大阪支店長 竹田 修氏

プリプレスからプレス、ポストプレス迄の総合商社として実績を積み(株)光文堂大阪支店。単に商社という立場ではなく、周辺機器やソフト、資材に至る自社ブランド商品を併せもつ企業である。

大阪支店の開設は今から25年前のこと。平成17年10月に中央区から現所在地へ移転、本年4月に前、三ツ塚邦夫支店長の後を受けて竹田修氏が新しく支店長に就任した。全国25拠点の1つとして関西ブロック(大阪・京都・兵庫・奈良・和歌山・四国)の統括本部長として活躍中である。

竹田支店長が着任最初の仕事として掲げたことの1つに、取扱商品を含めて支店の位置づけ向上、イメージアップ、信頼性向上など、総合した光文堂のPR活動がある。

現在の支店スタッフは技術者1名を含む8名。最近ではシール印刷業界向けの効率化・高品質化製品多くを戦列に加えて同業界発展への貢献が目立つ。

「厳しい経済情勢下にあるものの、まだまだ大阪支店としては市場開拓の余地を残している」という竹田支店長、「今後は各業界(業種)毎に対象を絞って提案内容の質を高めていきたい」と、貢献度を強める挑戦が新たな楽しみにも変わっているようだ。

昭和26年1月16日生まれ。趣味は強いて言えばゴルフと神社仏閣めぐりという。最近では各地の商店街を歩く機会もおおいか。その土地の商店街には「土地柄」を伺わせるものがあり、一日も早く関西の地に馴染みたいという現われだろう。

連絡先

〒581-0039  
大阪府八尾市太田新町1-300  
電話 072-989-7061 FAX 072-989-7065  
e-mail o\_takeda@kobundo.co.jp  
URL http://www.kobundo.co.jp



幅広いソリューションで業界支援

マンローランド株式会社

代表取締役社長 宮城 荘一郎 氏

世界で最も長い歴史を誇るオフセット印刷機メーカー。その世界的シェアは、輪転印刷機で第1位、枚葉印刷機において第2位となっている。日本市場への進出は1962年、大日本インキ化学工業(株)(現DIC)が枚葉印刷機の販売を開始したことに始まる。2000年には、両社が50%ずつ出資して、ディック・マンローランド(株)が誕生。そして2007年3月、日本におけるマンローランドの純粋な販売子会社となるとともに、その舵取り役として同年11月、宮城荘一郎氏が新社長に就任。今年4月からは社名もマンローランドジャパン(株)とし、新たなスタートを切る。

宮城社長は「単に印刷機を売るのではなく、お客様が価格競争に陥らない、付加価値の高い製品を生み出せる印刷機とサー

ビスを提供することが、当社としての業界の支援につながると確信している」と印刷業界にかける熱い想いを語る。

同社の強みは、菊半サイズの小型機からA四倍サイズの大型機に至る幅広い製品構成と顧客ニーズに即したカスタムメイド設計での提供、そして付加価値を創造する多彩なインラインシステムにある。現在では、国内においてもラージフォーマット印刷による生産効率改善の提案に注力している。

また、IGAS2007、drupa2008では、菊全機における準備時間短縮の世界記録を持つ「ローランド700ダイレクトドライブ」を出展し、大きな反響を呼んだ。なお同機は現在、日本を含め全世界で100台以上が納入されている。

連絡先

〒335-0026  
埼玉県戸田市新首南3-1-23  
電話 048-447-9122 FAX 048-447-9128  
e-mail soichiro.miyagi@manroland.co.jp  
URL http://www.manroland.co.jp

All in Print China 2008 視察ツアー  
11月16日、無事帰国しました

KPMAでは、11月14日から17日までの4日間、中国・上海新国際博覧センターにおいて開催された中国国際全印展「All in Print China 2008」視察ツアーを実施しました。参加者は13日に関西国際空港から出発。展示会視察と観光を終え、16日、同じく関西国際空港へ無事帰国しました。

